

鰐口

このどらは、1339年に妻沼聖天山歓喜院に寄進されました。刻印は、妻沼地域が14世紀には福河（ふくかわ）庄として知られていたことを示しています。どらの直径は31センチで、同心円模様が表裏に施されています。

この鰐口は青銅製で、どらの上部には2つの穴が空けられており、ここにひもを通して門や寺院の軒先に吊るされます。下部の一文字に広く開いた「口」が、音を増幅させます。参拝者は、どらの手前に下がっている重い縄を振って鰐口を打ち鳴らし、祈りをささげる前に神々の注意を引きます。

埼玉県の指定文化財であり、埼玉県立歴史民俗資料館（埼玉県大宮市）に展示されています。また、本堂に一番近い仁王門の軒先にも同様の鉦が吊るされています。